

6. 終末期医療・延命医療

48

7. 安楽死・尊厳死

- 安楽死 (**euthanasia**)
 - 筋弛緩剤などの薬物注射によって生命を絶つこと。
- 尊厳死 (**death with dignity**)
 - 回復する見込みのない病者が無益な延命措置をほどこすことをやめて、自然な死を迎えること。→リビング・ウィル (*living will*)
 - 日本尊厳死協会

49

8. 脳死・臓器移植

- 臓器移植法の成立 (**1997年**)
 - 「自己決定権」に基づいている。
- 当時の宗教界の反応
 - 仏教界: 本願寺、真宗大谷派、創価学会
 - その他: 大本 (絶対反対の立場)
 - キリスト教界: 目立った批判はない。「隣人愛」、愛他主義 (*altruism*) に基づく積極的肯定が目立つ。

50

改正臓器移植法 (2010年)

- **2010年1月17日**より
 - 親族に対し臓器を優先的に提供する意思を書面により表示可能。
- **2010年7月17日**より
 - 本人の臓器提供の意思が不明な場合も、家族の承諾があれば臓器提供できるようになる。これにより、15歳未満の脳死者からの臓器提供も可能となる。
- 【参考】脳死になるのは**100人**の死者のうち一人程度。

51

ドナーカード

臓器提供意思表示カード

厚生労働省・(社)日本臓器移植ネットワーク



このカードは欄に誘導してください。

ドナー情報用全国共通連絡先 **0120-22-0149**

臓器移植に関するお問い合わせ先: (社)日本臓器移植ネットワーク
フリーダイヤル 0120-78-1069 <http://www.jotnw.or.jp>

52

9. ES細胞・iPS細胞研究

- **ES細胞 (Embryonic Stem Cell)**
 - 神経や心筋など、体のあらゆる組織や臓器に育つ可能性があり、「万能細胞」とも呼ばれる。
- **ES細胞の作製には、通常、受精卵 (余剰胚) が用いられるため、中絶と同様、「生命の尊厳」を侵害しているという理由から、その研究に反対するグループも存在する。**
- **iPS細胞 (induced pluripotent stem cell、人工多能性幹細胞) の樹立**

53

10. 生命倫理と宗教をめぐる課題と展望

1. 宗教的言説の再検討
2. テクノロジーに対する批判的洞察
3. 安易な還元論に対峙できる人間論の提示
4. 他者性の認識

54

宗教的言説の再検討

- 「生命」「生命の尊厳」とは何か
- 宗教的伝統を、科学を含む多元的価値の中で再評価する必要がある。
- 比較宗教倫理(**comparative religious ethics**)の視点の必要性

55

テクノロジーに対する批判的洞察

- テクノロジーは価値中立的ではない。テクノロジーが有する両義性(プラス面・マイナス面)を認識する必要がある。
 - 「リスク社会」について
- 人間の欲望とテクノロジーの無限上昇のスパイラル構造を、どのようにコントロールするのか。

56

安易な還元論に対峙できる人間論の提示

- 自己決定権がもつ危うさ
- 遺伝子還元主義の拡大
 - 新たな優生思想への警戒
- 「わたし」は何者か、という問い
 - 身体的同一性?
 - 記憶における同一性?

57

他者性の認識

- 他者の「他者性」をどのように認識するのか。
 - 絶対他者としての神(他者性の起源)
- 他者認識を欠く者は、他者を従属・同化させようとする。

58

【参考】ラインホルド・ニーバー(1892-1971)の祈り (serenity prayer)

神よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。

変えることのできないものについては、それを受けいれるだけの冷静さを与えたまえ。

そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知恵を与えたまえ。



59